

作品の閲覧

2025-10-30

『青い壺』

何でも読もう会

書物名	『青い壺』	開催日	出席者
作 者	有吉佐和子	10月30日	4名

<作品の内容等>

- ・時は昭和の高度経済成長期。ある陶芸家が作った「青い壺」が売られ、贈られ、盗まれ、買われと、様々の人に渡って行く。その壺の持ち主が次々に登場する。
- ・定年退職後の夫婦、贈答費として受け取った壺が気に入る夫人、親の介護をする娘、遺産相続に頭を痛める妻等々13話が描かれる。
- ・十数年後に作者の師匠のところで、青い壺にさいかいするものの、自分の作品からは離れてしまっている。

<皆さんの感想意見>

- ・身内に似た夫婦がいることで、興味深く読んだ。
- ・13話の展開が面白く、次はどんな人に渡るのかと楽しみながら読んでだ。
- ・幸せとは何なのか、お金じゃない満足感が作者の意図のように思った。
- ・スペインまで行った「青い壺」は、どんな気持ちだったのかと考えると、なかなか深い思いがした。
- ・第一話と第十三話では芸術品とはと問うているようだ。